

Title	目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院法務研究科
Publication year	2017
Jtitle	慶應法学 (Keio law journal). No.37 (2017. 2) ,p.iii- iv
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	井田良教授退職記念号
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1203413X-20170224--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

目 次

井田良教授退職記念号

献呈の辞	片 山 直 也	
執行猶予と幅の理論	原 田 國 男	1
性犯罪の保護法益及び刑法改正骨子への批判的考察	島 岡 ま な	19
医療や医薬品のコンプライアンスと刑事制裁	上 田 正 和	39
精神障害受刑者の釈放と26条通報	太 田 達 也	77
日本の女性刑務所が抱える問題について考える	矢 野 恵 美	111
連続する横領行為について	榎 本 桃 也	131
共謀罪あるいは「テロ等組織犯罪準備罪」について	亀 井 源 太 郎	151
共同正犯における行為計画に関する一考察	内 海 朋 子	173
法益関係的錯誤説に対する批判	野 村 和 彦	187
組織的詐欺罪について	大 山 徹	205

不作為に対する正当防衛	飯 島 暢	227
共同正犯と正当防衛		
——最決平成4年6月5日刑集46巻4号245頁を素材として——	照 沼 亮 介	249
侵略犯罪と国内法化		
——ドイツにおける近時の立法動向を素材に——	フィリップ・オステン 久保田 隆	269
途中でやめるとはどういうことか		
——不作為による中止犯の理論的構造——	和 田 俊 憲	299
意味の認識の内容について	南 由 介	321
オーストリア刑法における責任能力と量刑		
——関係規定の概観——	小 池 信太郎	343
ドイツの「スポーツにおける反ドーピング法」について	佐 藤 拓 磨	369
オーストリア刑法における違法性の意識と違法性の錯誤	藪 中 悠	393
詐欺罪における間接的損害について	荒 木 泰 貴	419
井田良教授 略歴及び主要業績		441